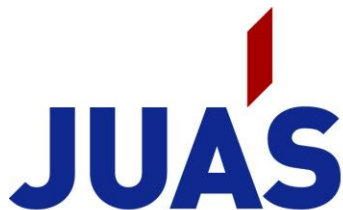


IT融合人材育成に関連した取り組みの ご紹介

2014年5月



一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会
Japan Users Association of Information Systems

沿革

1962年4月 日本データ・プロセッシング協会創立

1992年7月 社団法人 日本情報システム・ユーザー協会に拡充改組

2012年4月 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会

役員

理事40名 監事3名

会長 石原 邦夫 東京海上日動火災保険株式会社 相談役

事務局

専務理事 金 修

常務理事 浜田 達夫

常務理事 山田 信祐

所在地 東京都中央区日本橋堀留町1-10-11

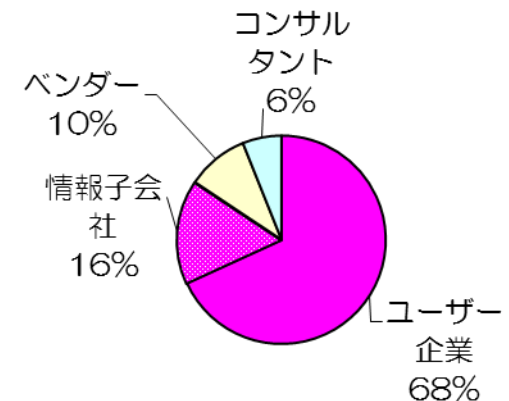
会員数(2013年5月1日現在)

正会員A :200社 +6社(2013.4.1からの増減)

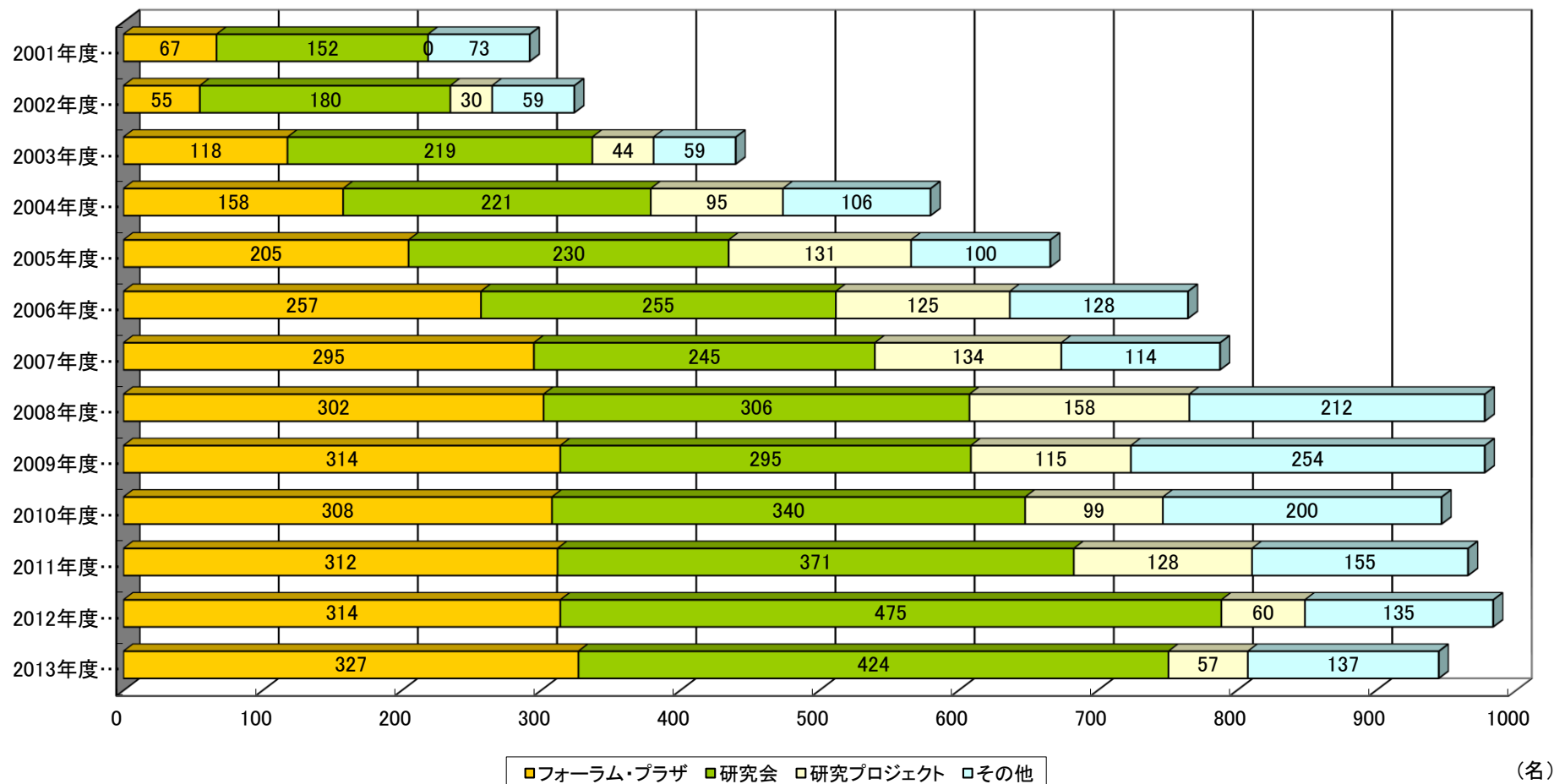
正会員B :143社 +6社

正会員C :2,469社 +353社

正会員企業の割合

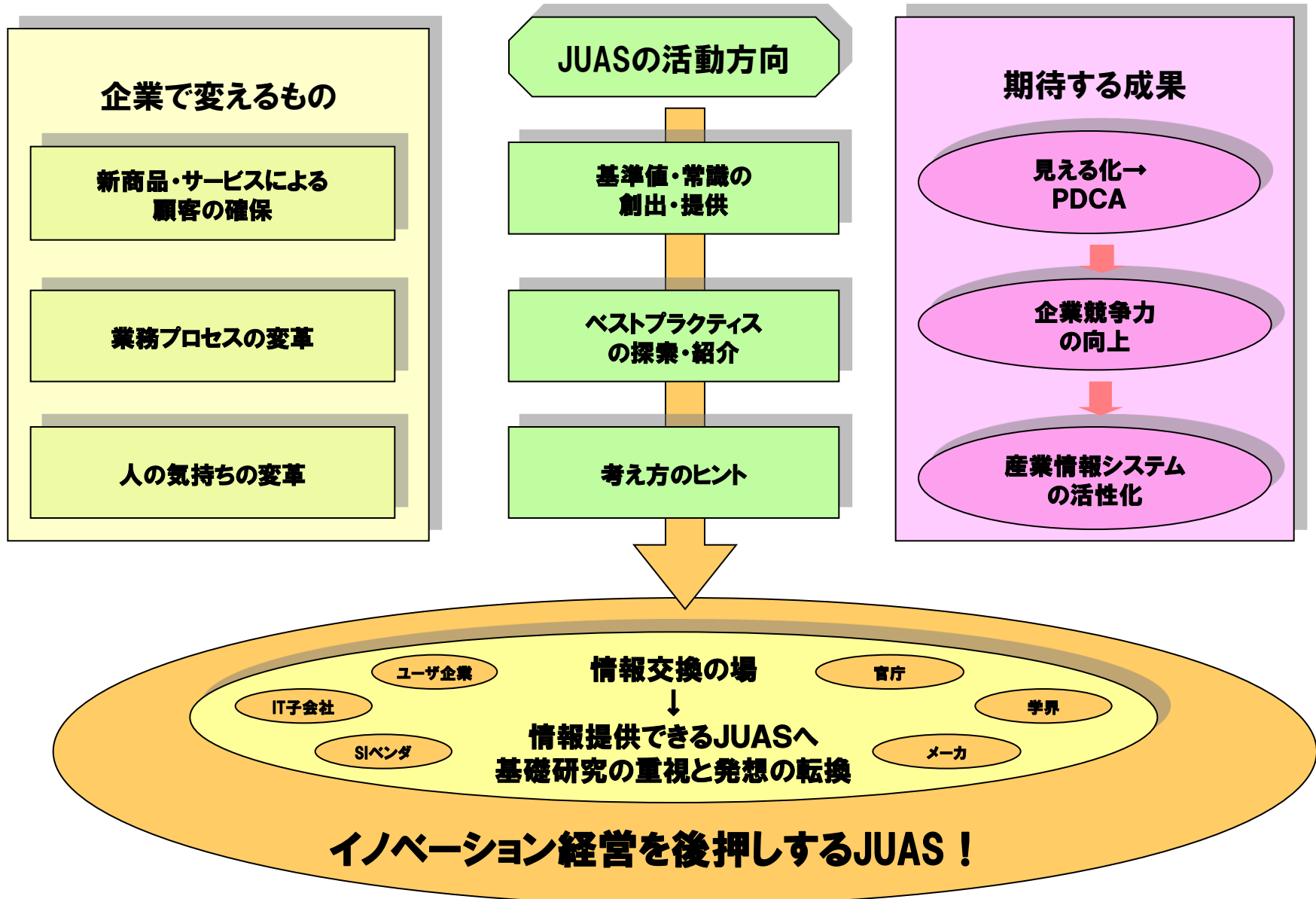


JUAS研究活動参加者数推移



【ご参考】 JUAS活動コンセプト

ユーザーの要求が未来を切り拓く
—イノベーションで企業を変える、日本が変わる—



会員活動

フォーラム

C I Oフォーラム (3)
 I T 部門経営フォーラム (5)
 I T 企業TOPフォーラム (3)
 I T グループ会社経営フォーラム (3)
 グローバルフォーラム★

関西支部

I T 部門経営フォーラム関西
 I T 企業TOPフォーラム関西
 I T グループ会社経営フォーラム関西
 P A R K (The place of advanced relationship in Kansai)★

研究会

テーマ型研究会

I T インフラ研究会
 I T サービスマネジメント研究会
 企業リスクマネジメント研究会
 ビジネスプロセス研究会
 データマネジメント研究会
 組織力強化研究会
 I T 人材キャリア形成研究会

ケース型研究会

ケース研究会
 ビジネスモデル研究会★

アドバンスト研究会

研究プロジェクト

システム開発・保守QCD研究プロジェクト
 J I I P (Japan industry Innovation project)

政策研究・調査
 C I O戦略フォーラム

調査事業

・企業IT動向調査
 ・ソフトウェアメトリックス

組織力強化普及・調査

セキュリティ・センター

・プライバシーマーク
 審査・認証

会員研修会

JUASアカデミー
 関西アカデミー

イノベーション
 経営カレッジ
 (I M C J)



教育研修事業

オープンセミナー

新人・配転者セミナー

オーダーメイド研修

教材開発・出版

海外研修・調査

J U A S ラボ
 JUASソリューションラボ
 JUASトレンドラボ

公開事業

サマースクエア
 J U A S スクエア
 JUAS FUTURE ASPECT

オープンセミナー

新人・配転者セミナー

オーダーメイド研修

教材開発・出版

海外研修・調査

JUASラボ JUASソリューションラボ JUASトレンドラボ

イノベーション 経営カレッジ (IMCJ)

a. オープンセミナー

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
開催数	68	82	97	135	137	197	152	158
参加人数	1807	2201	2503	2464	2463	2750	2027	2574
会員比率	61.93%	63.47%	64.36%	70.74%	77.99%	74.49%	73.54%	76.76%

b. 新人・配転者セミナー

				2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
参加社数				11	12	14	15
参加人数				15	29	30	37

c. オーダーメイド研修

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
企業数	13	11	14	15	14	16	16	18
講座数	19	20	36	27	22	27	26	25
総日数	47	52	64	46	33	45	46	44
受講者数							439	636

d. 出版

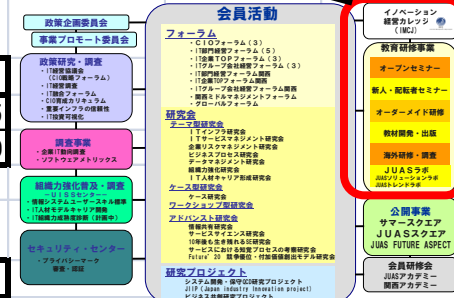
	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
種類数	19	41	39	33	41	34	35	35
販売点数	1285	1745	1599	1142	1320	1074	684	950

e. ミニ研修(JUASラボ)

ソリューション・ラボ : 1回、トレンド・ラボ : 3回 (参考:2013年度実績)
--

f. イノベーション経営カレッジ

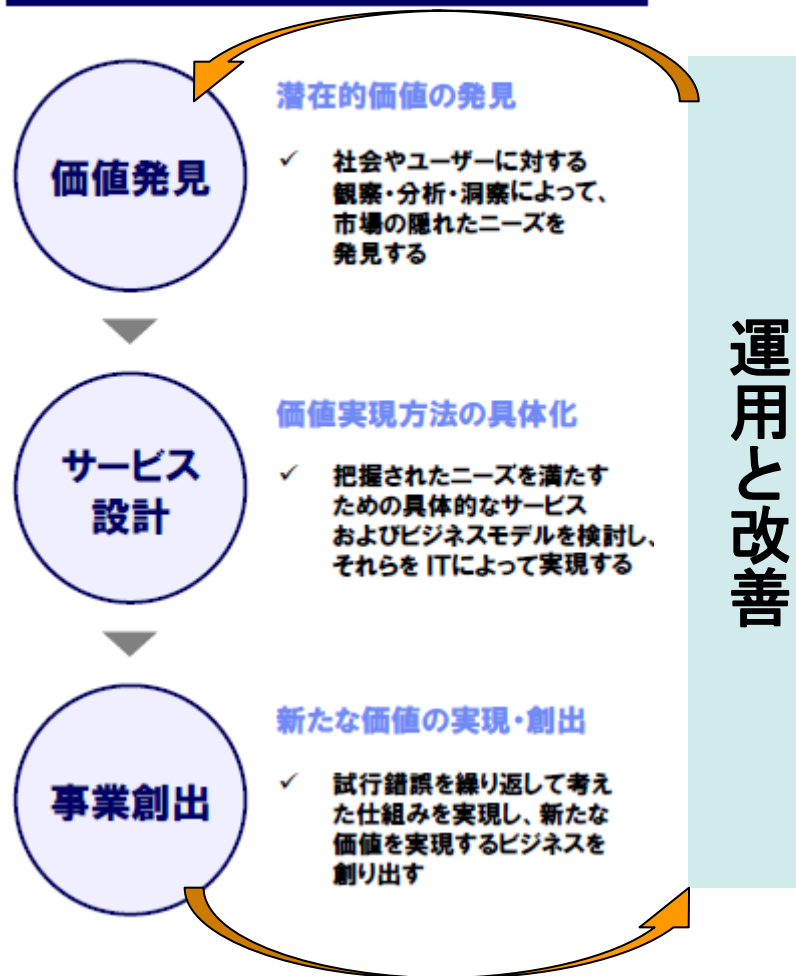
	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期
	2009.7-8	2009.10-11	2010.7-8	2010.10-11	2011.7-8	2011.10-11	2012.7-8	2012.10-11	2013.7-8	2013.10-11
受講者数	19	17	15	15	19	15	18	12	12	15



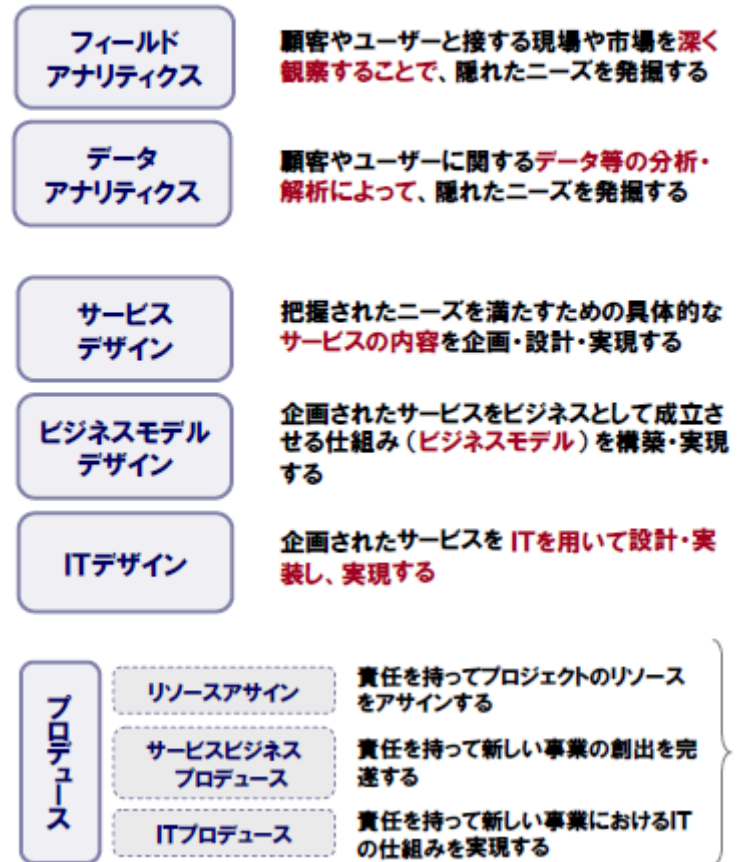
融合IT人材が関わるプロセスと担うタスク

ユーザーの要求が未来を切り拓く
—イノベーションで企業を変える、日本が変わる—

新事業・新サービスの創出プロセス

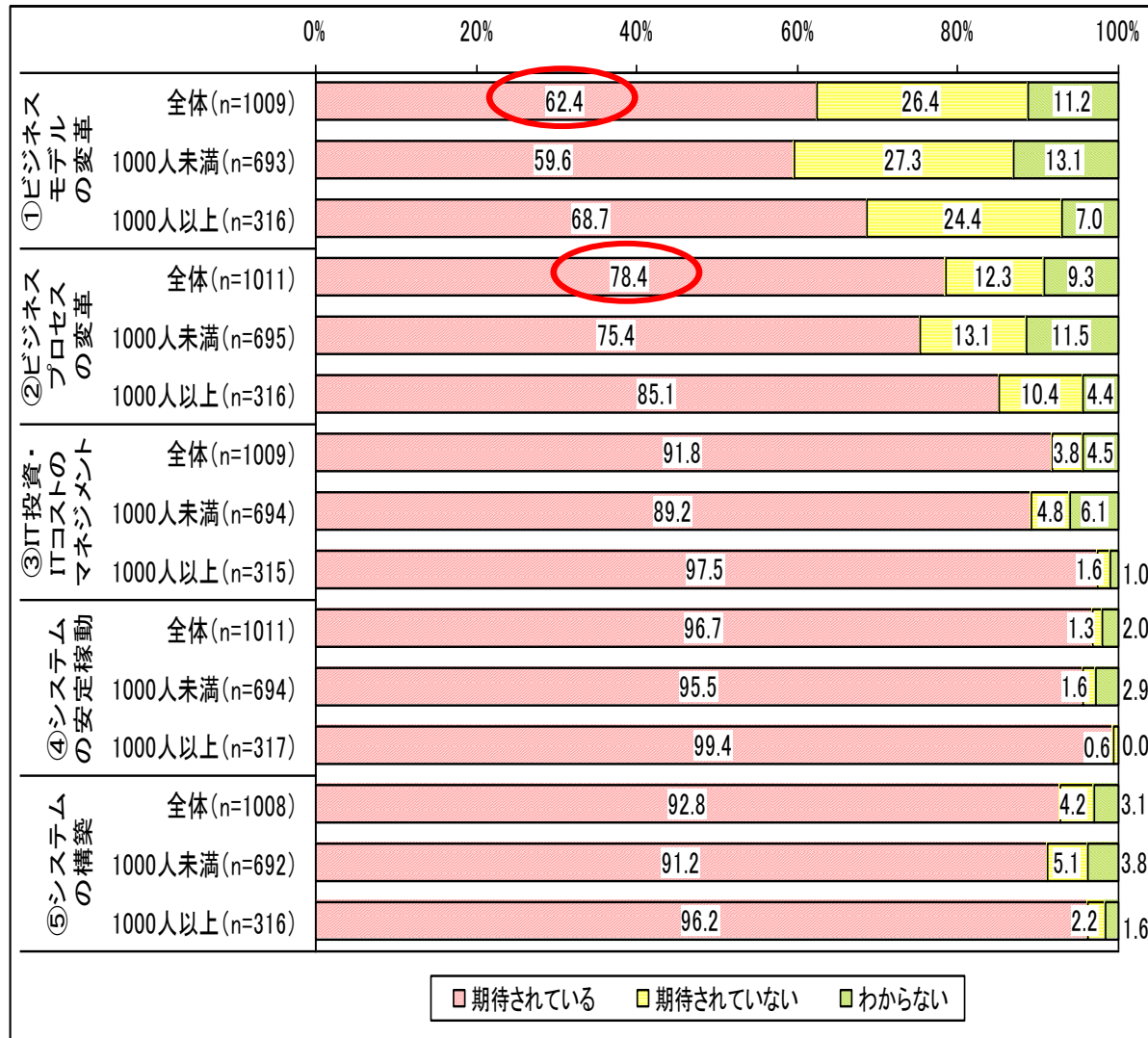


各プロセスに含まれるタスク



<経営層からIT部門への期待> 広がる期待領域

経営層の 6割が「ビジネスモデルの変革」を、8割が「ビジネスプロセスの変革」を
IT部門が担当してくれることを希望



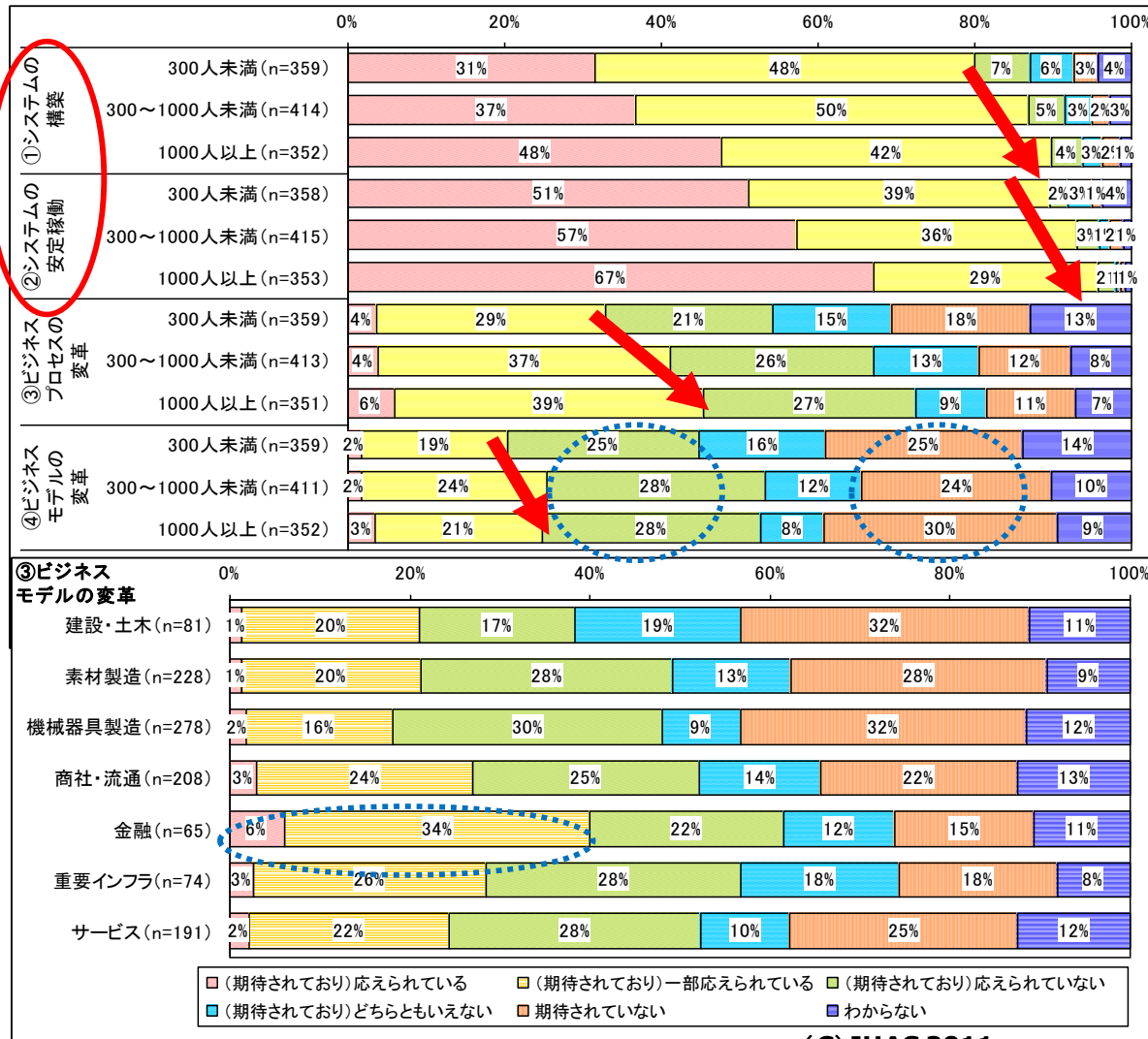
<業種別に見ると>

・「ビジネスモデルの変革」を期待されているIT部門が多いは、「金融」(82.4%)、「重要インフラ」(69.2%)、「商社・流通」(69.1%)で、「ビジネスプロセスの変革」を期待されているIT部門が多いのは、「金融」(88.2%)、「商社・流通」(82.8%)、「機械器具製造」(80.6%)である。

・これは、情報処理自体が業務の根幹を支えている金融や複雑なサプライチェーンをグローバルレベルで構築している商社・流通では、ITがビジネスに深く入り込んでおり、ビジネスモデルやビジネスプロセスの変革にITが不可欠となっているのではないかと考える。

<経営層からのIT部門への期待と貢献度>

経営層からの期待に対しIT部門が応えられているのは
「システムの安定稼働（「全体」で92%）とシステムの構築（85%）」で、
「ビジネスプロセスの変革（39%）とビジネスモデルの変革（22%）」はまだ課題が多い



・従業員規模別では、「ビジネスモデルの変革」以外の各分野では、規模が大きい企業ほど経営層の期待に応えられていると回答した割合が高い。

・業種グループ別では、「金融」は各分野で経営層の期待に応えられている割合が高い。（「システムの安定稼働」94%、「システムの構築」92%、「ビジネスプロセスの変革」54%、「ビジネスモデルの変革」40%）

新製品・新サービスの創出におけるITの重要性

ユーザーの要求が未来を切り拓く
—イノベーションで企業を変える、日本が変わる—

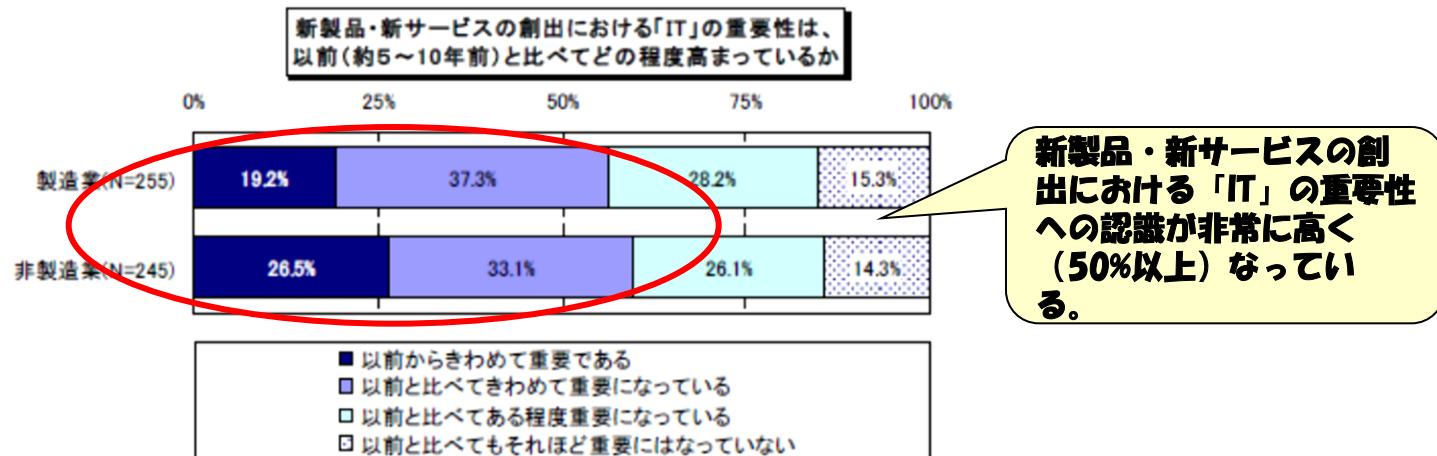


図 3-14 新製品・新サービスの創出におけるITの重要性の変化(ユーザーのみ)

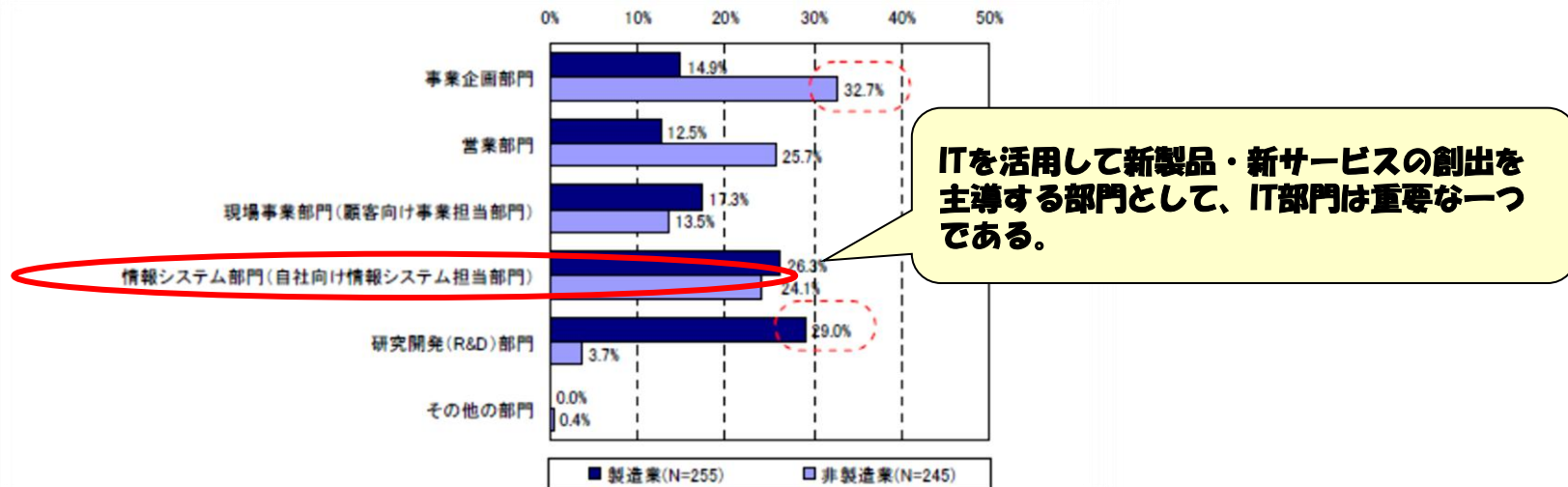


図 3-11 ITを活用した新製品・新サービスの創出を主導することが最も多い部門(ユーザーのみ)

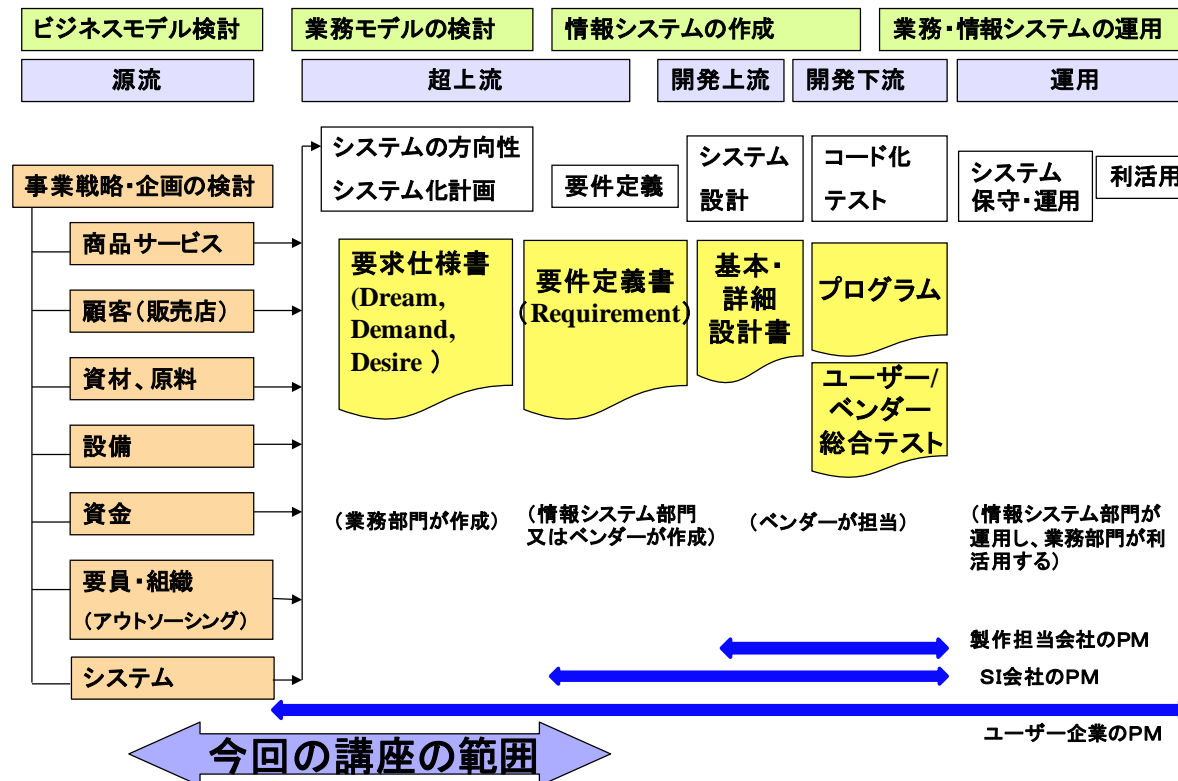
【 背景と経緯 】

世の中では、

融合IT人材（次世代高度IT人材改め）が求められ
タスクやスキルが定義され始めている。
ユーザー企業においては、
IT要員にビジネスモデル／プロセスの変革
を担って欲しいと期待されている。

それならば、

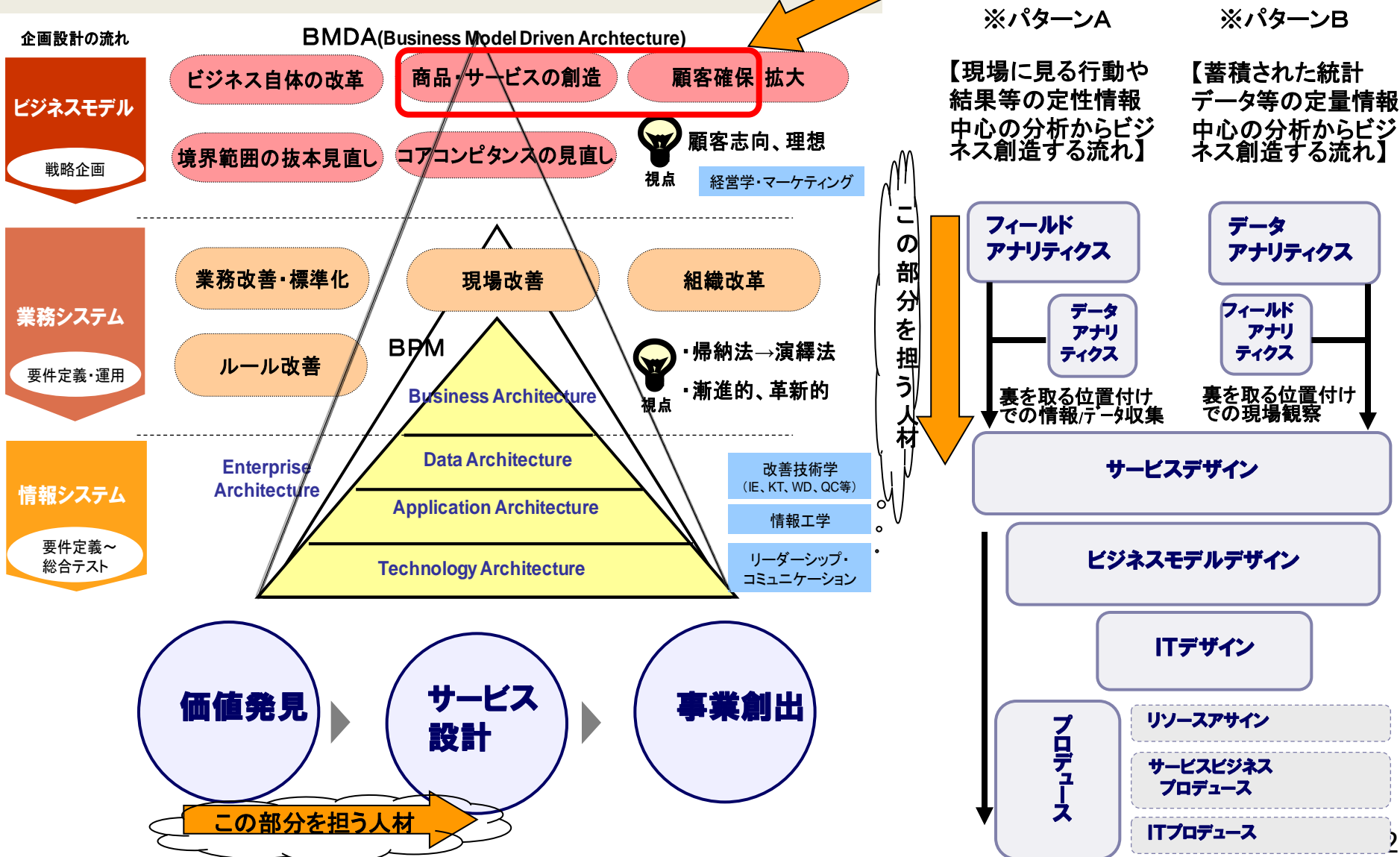
これまでにIT業務を担当してきた
経験や視点から、
新たな事業やサービスを創造するための
流れを体得できる
『IT駆動型の創造塾』
を企画しよう。



どんなタスクを担う人材の育成を想定したか

ユーザーの要求が未来を切り拓く
—イノベーションで企業を変える、日本が変わる—

3段階の体系化を基にイノベーションの推進を



『IT駆動型 新・サービス創造塾』

目的と特徴

ユーザーの要求が未来を切り拓く
—イノベーションで企業を変える、日本が変わる—

これからのミドルマネージャーの
基礎スキルとして、ITの本質や可
能性を理解し新たなビジネスサー
ビスの価値を創造するプロセスを
学び、事業部門と共にこれまで以
上の成果をあげるための基礎を5日
間で体感・訓練

事業部門と共に、あるいは事業部
門に対し、新たな付加価値を生む
提案、サポートができるセンスを
磨く

成田空港や成田山などを
現場観察し、実際にサー
ビス企画書を作成

プログラムの特徴

事業部門と共にこれまで以上の成果を
上げるための基礎を短期間で
体感・訓練

IT技術の概念理解力や

IT技術の効果・限界・アウトカムなどを洞察する力を礎に、

「知識・スキル習得」「意識・志向」「アクションラーニング」という

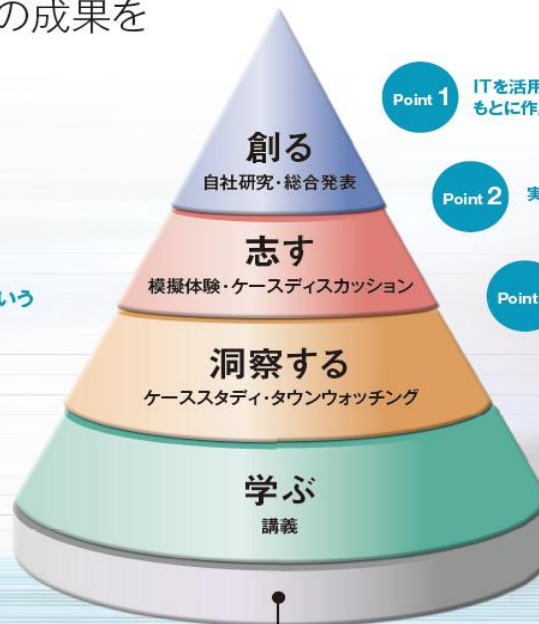
3つのアプローチから、

新たな価値創造やサービス創造の基礎を身につけます。

現場の体験・体感に徹底的にこだわり、

新サービスを創造し発達させる醍醐味を

ぜひ実感してください。



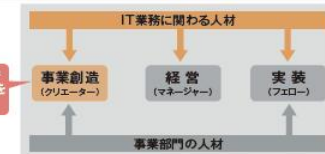
Point 1 ITを活用して新たな価値を創造してきた実践者41人のインタビューを
もとに作成した実践のカリキュラム

Point 2 実際に成田でタウンウォッチングに飛び出し、現場ニーズを探す!

Point 3 ITを活用して新サービスを創ってきた実践者ご本人の体
験談!

Point 4 業種・業界の枠を超えた他流試合!

Point 5 いかに周囲を巻き込むかを念頭に置いた演
習・講義で、企画を夢に終わらせないス
キル・マインドを習得



人間力 (マインド・センス・モラル)

『IT駆動型 新・サービス創造塾』

カリキュラムと実績

ユーザーの要求が未来を切り拓く
—イノベーションで企業を変える、日本が変わる—

学 ぶ		
1日目 16:00~ 20:00 ↓	IT部門への期待の変化を実感	講義 0.5H
	新サービス創造実践者／実現者の体験に学ぶ JTBビジネスイノベーターズ 代表取締役常務 北上 真一 氏	講義+WS 1.5H
	パートナー／コンペティターを知る	WS 1.0H
2日目 10:00~ 18:00 ↓	一歩先行く攻めのIT部門への変革	ディベート 2.5H
	新サービス創造実践者とともに学ぶ エヌ・ウェーブ 代表取締役社長 矢萩 章氏	講義+WS 1.5H
	新サービス創造の着眼点整理と把握	事例研究+WS 2.0H
	現場観察に向けた仮説の立案	講義+WS 1.0H
洞察する		
仮説検証 までの 1ヵ月	仮説検証のための情報収集	WS 宿題
3日目 合宿 10:00~ ↓	検証方法の確認	講義 0.5H
	仮説の確定と検証ポイントの特定	講義+WS 0.5H
	現場観察【1】仮説検証と離れたニーズの収集 成田市内をチームで現場観察 (成田空港、成田山、大型ショッピングモール、新興住宅地 等)	現場観察 6.0H
	検証結果のまとめとサービス化の準備	講義+WS 1.0H
	新サービス案の確定とカタログ化	講義+WS 2.5H

志 す		
4日目 合宿 ~17:00 ↓	仮想カタログのレビューと改善	講義+WS 1.0H
	現場観察【2】新サービス確立に向けた再検証 成田市内を新サービス案をもって再度観察	現場観察 3.5H
	新サービスの具体化	講義+WS 2.0H
	新サービス実現に向けた計画	講義+WS 2.0H
創 る		
5日目 15:00~ 18:30	新サービスの発表	WS 1.5H
	新サービス創造者としてのアクションプラン ~自社における自身の行動計画~	WS 1.5H

(合宿を含む全5日間)

※参加実績 第1期 : 10社10名
第2期 : 14社15名

※役職 : 課長~リーダークラスが中心

※社会人歴 : 平均13.7年 (9年~22年)

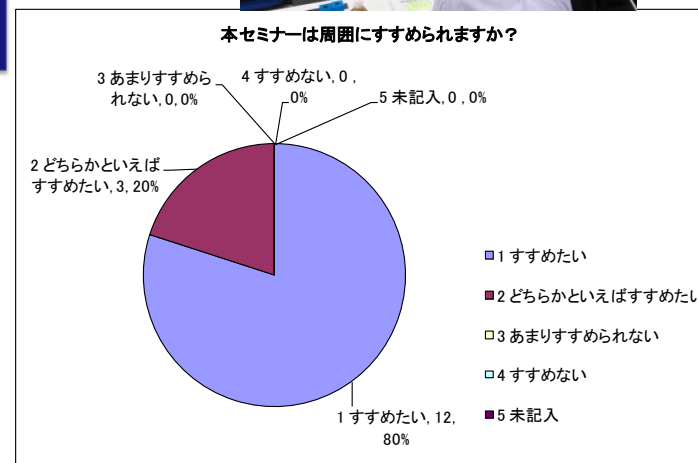
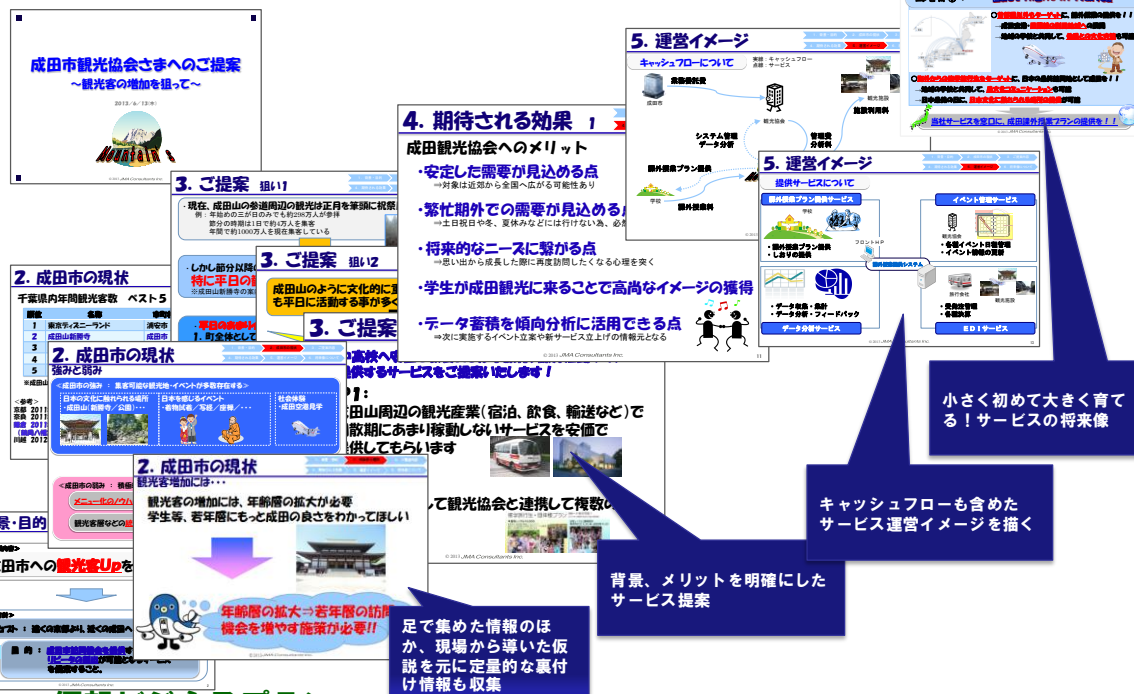
※現在の担当業務 :

・企画系 73%、運用系 13%、開発系 7%、保守系 7%

演習テーマ

皆さんは、各グループメンバーの所属会社の共同企業体の社員です。以下の発注者から依頼が来ています。依頼を1つ、または複数選び、グループで現場を見て、ITを活用した新サービスを企画・提案してください。

- (1) エアライン会社「利用者の顧客満足度を向上したい」
- (2) 成田観光協会「成田への観光客を増やしたい」
- (3) ニュータウン自治会「ニュータウンを活性化させたい」
- (4) 大型ショッピングモール「ショッピングモールへの集客を高めたい」



仮想ビジネスプラン

★「らくらく旅行サービス」

旅行者（主に出張するビジネスマン）の荷物をレンタル化することで時間と労力の削減と新しい体験を提供する。

★「成田山ガイド付きオンライン予約システム」

現在は埋もれているボランティアガイドサービスをシステム化して大きなビジネスに。

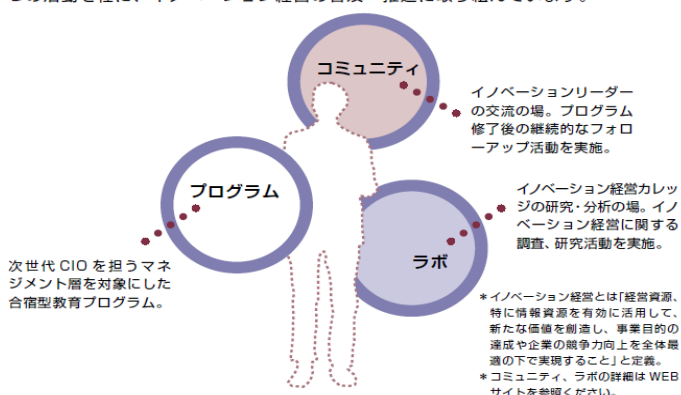
★「大型SCキッズスペース向：子供とつながる映像配信サービス」

大型SCを横断的に有効管理できるキッズスペース運営会社またはSC向けサービス。

『イノベーション経営カレッジ』

イノベーション経営カレッジとは

イノベーション経営カレッジ (IMCJ: Innovation Management Collage of Japan) は、情報と情報技術 (IT) を活用して新しい価値を創造できる CIO 人材 (= イノベーションリーダー) を育成・支援する取り組みです。2008 年度に実施された経済産業省の「IT 経営協議会・CIO 人材育成ワーキンググループ」で検討された人材育成の仕組みを基に、一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 (JUAS) が中心になり、賛同いただいた各界の協力を得て展開・実現したものです。下の 3 つの活動を柱に、イノベーション経営の普及・推進に取り組んでいます。



CEO・CIOからの熱意あふれるレクチャー

IMCJ の最も顕著な特徴は講師陣。日本を代表する CEO・CIO が、後進となる受講生に「気づき」を与えるべく、その経験とノウハウ、マインドを惜しむことなくレクチャーします。対する受講生の意気込みもあって、手に汗を握る質疑応答が展開されます。



遠藤 紘一 氏
リコー・ジャパン (株)
顧問



大路 延憲 氏
花王 (株) 理事
前情報システム部門統括



木村 昌平 氏
セコム (株)
取締役会長



菊川 裕幸 氏
JFE システムズ (株)
代表取締役社長



矢澤 篤志 氏
カシオ計算機 (株)
執行役員

1期～8期 ケーススタディ講師陣

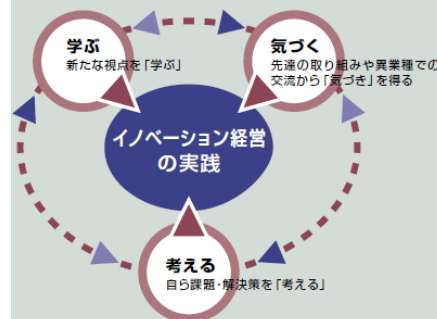
石野 晋之氏 (株) リコー IT/IS 本部長
石原 邦夫氏 東京海上日動火災保険 (株) 取締役会長
遠藤 紘一氏 リコー・ジャパン (株) 顧問
大路 延憲氏 花王 (株) 理事 前情報システム部門統括
綱本 正氏 東京ガスエミカル (株) 代表取締役社長
菊川 裕幸氏 JFE システムズ (株) 代表取締役社長
木内 里美氏 大成ロテック (株) 常務取締役
木村 昌平氏 セコム (株) 取締役会長
行徳 セルソ氏 日産自動車 (株) 執行役員 CIO
齋藤 正勝氏 カブドットコム証券 (株) 取締役 代表執行役社長
重松 直氏 東レ (株) 常任理事

白川 貴久子氏 (株) NTT ドコモ 情報システム部 情報戦略担当部長
鈴木 義伯氏 (株) 東京証券取引所 専務取締役
福井 靖昭氏 パナソニック (株) 上席理事
森 正弥氏 楽天 (株) 執行役員
矢澤 篤志氏 カシオ計算機 (株) 執行役員 生産資材統括部 副統括部長
横瀬 裕志氏 東京海上日動システムズ (株) 代表取締役社長
横溝 陽一氏 旧 (株) ローソン 常務執行役員 CIO (株) リガク 取締役 常務執行役員 社長室長

*掲載は 50 音順、所属・役職は登壇当時。1～8 期までの講義、ケースメソッド等の講師陣は以下を参照ください。
<http://imc-j.jp/program/lecturer.html>

到達目標は自社の変革 (プログラムの特徴)

先達である CEO・CIO からイノベーション経営実践事例を直接聞き、「気づき」を得るとともに、多角的にイノベーション経営のあり方を「学ぶ」、異業種の同期生とのディスカッションを経て、プログラムの最後は自ら「考える」課題・解決策の発表で締めくくられます。ここで得るのは、「静的な知」に留まらない「活きた問題解決力」です。



1. 実践的:

「講義 (学ぶ)」「ケーススタディ (気づく)」「ディスカッション・総合発表 (考える)」という 3 つのアプローチで実践力を磨きます。

2. 体系的:

経済産業省が策定した「CIO 育成カリキュラム」に基づき、必要な知識を組み込み、体系的にプログラムを構成しています。

3. ここでしか聞けない:

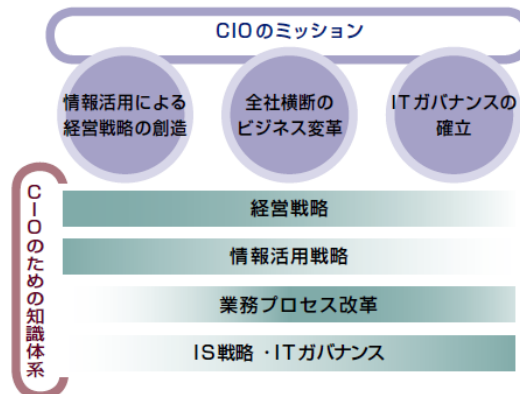
講師陣は日本を代表する CEO や CIO、その経験とノウハウ、マインドを惜しむことなく披露していただきます。また、各期とも 20 名前後で開催するため、密度の高い議論が交わられます。

4. 企業を超えたネットワーク:

終了後も同期生だけでなく、他の期の受講生や講師陣との様々な情報交換を支援、イノベーションリーダー同士のネットワークを形成します。

ミッション実現のための知識

IMCJ ではイノベーションリーダー (CIO) が担うミッションの実現に不可欠な知識を、体系的に学べるようにカリキュラムを構成しています。理論だけではなく、ケーススタディやディスカッションからも気づきを得るとともに実践的な知識を獲得し、マインドアップを図ることができるのも大きな特徴です。



* IMCJ では、経済産業省の「CIO のための知識体系」に基づきプログラムを構成しています。図のそれぞれの知識の色調は、ミッション実現における関連性の強弱を表しています。

CIOのための知識体系

『情報システム部門 新人・配転者向けプログラム』

A 「～情報システム要員としての考え方と基礎知識 & スキル～
(ケース演習での全体業務疑似体験付き)研修」カリキュラム (7/1～予定) ※内容は変更する場合がございます。

プログラムの特徴

「ITの最新動向」、「企業(事業)戦略とIS戦略の関係性」、「ISの体系的な作業プロセス」を演習を交えて講義し、現場リスクや要点、勘所を支える知識やスキルをストーリー立てで習得します。

各プロセスの講義はJUASで人気の講師や現役CIO等、JUASならではの講師を布陣。講義内容のみならず、そこで語られる経験談は、自らのロールモデル、キャリアイメージを描く機会となります。(※3ヶ月後の個々のキャリアプランの進捗確認とフォローアップも準備。)

各社の新人がチームに分かれ集中して学ぶことでモチベーションのアップを狙います。また「異業同郷」のネットワークで、今後に活きる関係づくりをめざします。

A「～情報システム要員としての考え方と基礎知識 & スキル～(ケース演習での全体業務疑似体験付き)研修」(7月)とオプションB「実機演習」(8月)の2部構成。いずれか一方でも受講可能です。

過去受講者の声を受け、eラーニングをセット。基本情報処理技術者試験の午前問題が免除されます。



日	期	月	日	曜日	科目名称	受講人数	備 考
お申込～eラーニング受講可能 (eラーニング終了後、試験会場にて基本情報午前試験受験)					Gグループ型 Sスクール型		
1	7	1	月	開講式	S		AM IT5 要員としての心構え、「情報システム」とは何か、「システム開発」とは何か、「プログラム」とは何かの講義、PM「情報システム」に関する最新IT動向、「個人情報」、「プライバシー」、「セキュリティ」に関する講義、懇談会
2	7	2	火	ロジカルスキル①	G		研修全体概要と研修スケジュール、コミュニケーションの基本スキル、構造化、プロセスモデリング、ロジックツリー、フレームワーク、ロジカルライティング、優先順位付け、業務フロー
3	7	3	水	ロジカルスキル②	G		プロジェクトファシリテーターの役割、計画、進捗管理、役割分担、会議運営ルール、会議の進捗管理への対応
4	7	4	木	情報システム概論	S		情報システムの歴史、システム構成要素、様々なシステム開発、システムライフサイクル、ネットワーク、ハード、ソフト、システム開発の内部、開発環境(事例)、ITの未来、ITの倫理、ITのセキュリティ、ITのリスク管理
5	7	5	金	設計原理	S		アルゴリズム(ソート)、データモデリング、オブジェクト指向、UML、E-R図、テーブル、QFD、正規化、CRUD、画面設計、画面レイアウト
6	7	6	土				
7	7	7	日				
8	7	8	月	ビジネスシステム概論①	S		経営ビジョン・ミッションと基本戦略、ITによる業務改善事例、財務会計の経理概論、IFRSへの流れ、コンプライアンス、ガバナンス、セキュリティ、CSA
9	7	9	火	ビジネスシステム概論②	S		経営計画からIT計画までのステップ、情報システム開発プロジェクトの一般的な進め方
10	7	10	水	プロジェクトマネジメント①	G		システム企画・開発・運用工程、開発プロジェクトのフェーズと工程別の作業内容、UMLタスクフレームワークによるシステム化計画、プロジェクトライフサイクル、スコープ
11	7	11	木	プロジェクトマネジメント②	G		情報共有とコミュニケーション計画、QCD計画、体制図、WEB準備、進捗とリスク管理、ネットワーク図による工程管理、CPM、変更管理
12	7	12	金	システム運用	S		企業における運用部門の役割と位置づけ、BPC、ディザスタリカバリ、セキュリティ、運用の体系化、終了後、振り返り懇談会
13	7	13	土				
14	7	14	日				
15	7	15	月				
16	7	16	火	振り返り	S		AM 研修日(教室内自習可能) PM 振り返りテスト/発表/解説
17	7	17	水	情報化ケーススタディ① ～情報化企画書のプロセス確認～	G		基本業務の要求整理、IT化の全体像(業務要件/システム要件)、情報化企画書の確認(全体像/スケジュール/運用/スコープ/体制/インフラ環境)
18	7	18	木	情報化ケーススタディ② ～システム要件とアリアン～	G		旧システムの現状把握(両当事・関係者)、業務KPI・システムKPIの特定(ソフトウェアメトリックスの活用)
19	7	19	金	情報化ケーススタディ③ ～RFPと提案～	G		業務計画、業務要件・IT機能要件の整理、RFP策定、提案計画
20	7	20	土				
21	7	21	日				
22	7	22	月	情報化ケーススタディ④ ～実行計画・モラル～	G		情報化実行計画(各：モニタリング、評価・モニタリング計画策定(ITプロジェクトKPI))
23	7	23	火	情報化ケーススタディ⑤ ～リリース決定・リリース～	G		プロジェクト進捗会議、本番リリース決定、正式リリース、モニタリング計画(ベンチマーク)比較、IT投資対効果の検証計画、2年後評価、改訂検討
24	7	24	水	ITトレンド入門	S		日本のIT動向、世界のIT動向
25	7	25	木	先人に学ぶIT活用	S		IT部門マネージャー等による、オムニバスセミナー
26	7	26	金	閉講式	S		基調講演、アクションプランの発表、振り返り、終了乾杯、懇談会
27	7	27	土				
28	7	28	日				
3ヶ月後							
29	10	25	金				フォローアップ講座、アクションプランの進捗報告、キャリアプランの報告

一部のセミナーは公開となる場合がございます。

JUASの関連研修事業

『ファクトベースで学ぶ ITマネジメント力アップ集中コース』

◆ITマネジメントにおいて重要な項目を「ユーザー1000社のIT動向」というファクトをベースに、「ユーザー自らが語る事例」「簡単なワークショップ（ラップアップ）」で一通り学ぶコースです。

◆IT部門の次世代リーダーの方に最適のコースです。

リーダーになったら、マネージャーになるなら、
必須の素養であるITマネジメントの要素のうち
今特に関心の高い5項目について学びます。

ITマネジメント

IT投資

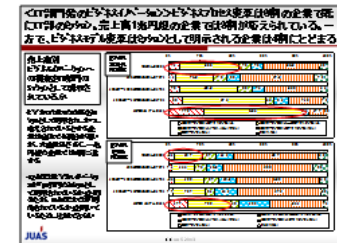
IT推進組織とIT人材

システム構築 ～経営戦略の実現

IT活用 ～システムライフサイ クル管理

第1回「ITマネジメント」

■ ユーザー企業動向の一例～「企業IT動向調査2013」より



■ ユーザー事例セッション

Session 1 「IT部門は変革仕掛け人！プロセス・プロダクトをも変革した「抜本改革」」
講師：(株)東京海上日動火災保険 理事／IT企画部長 稲葉 茂氏

1000



● 精選摘要

全社がプロセスを俯瞰できる「統合」部門の導入です。それによって、「ITを適用してプロセスを改善」する従来の「改善」部門と異なり、東京海上日動火災保険では、かつて屋敷など商品の「納期」や価格にリアルタイムで横ばい、ビジネス環境の変化に伴って価格が変動していたなど、これまで「改善」部門が持つべき本来の解決力は弱まらず、その商品・サービスがシステム上三位一体の「技術革新」「部門」でも提供、事業の重要部門を脱脱・脱金融・脱販売を導くのが「統合」部門として2003年が7月の約1年間で、改革に成功、「技術改革」の立上げと推進に必要資金の約5割を充てて取得したと報告しています。

● 講師略歴

京都大学経済学部卒。82年東京海上火災保険入社。05年東京海上日動システムズに出向。技術改革本部長就任。以後「技術改革」の隔年登壇にあたる。06年東京海上日動システムズ取締役を経て09年東京海上日動火災保険補任。IT全国部長を経て12年より退職。

Session

1. **Quantitative** (Measurable)

「質の高い情報提供が価値を生む！最速地生屋の実現に向けたIT構造改革の実践」
 本田技研工業株式会社 IT本部 本部長代行 ● 有吉 和幸 氏



● 講演概要

[illegible]

● 博 師 略 歴

1976年本田技研工業入社。情報システム部門で補修用部品領域でシステム開発を担当、部品事業企画部門、IT部長を経て2012年より現職。

◆カリキュラムの4つの特徴◆

企業の取組み状況／トレンドを定量的に知る

ユーザー企業約1000社の回答からまとめたIT動向・取組状況を定量的に確認する。自社の立ち位置をベンチマークする。

将来のアクションにつなげる！

ワークショップ(ラップアップ)

簡単なワークショップ(ラップアップ)を行い、各テーマの実践に向けたマインドを醸成・体得。

型としての具体例を学ぶ！ ユーザー自ら語る事例

当該テーマに着手する際のポイントや留意点、心構えを事例から実感する。

他社の同じ立場の方との交流会

同じ立場の方とのお流試合・仲間作り！

JUASの考えるイノベーションとその能力養成のための構成要素

イノベーション実施のための必要知識 (JUAS案V7)

- ・問題発見力強化法(関連づける力、質問力、観察力、ネットワーク力、実験力・・・クリステンセン)
- ・問題感知力(何かもっと良い方法があるはずだ。マインドを強化すればセンスもよくなる・・・JUAS)

イノベーション区分		要素	研修項目
ビジネスモデル・イノベーション	プロダクト・サービスイノベーション (A)	商品・サービス	・技術知識 ・創造的発想法 ・クリエイティブシンキング(水平思考)・デザインシンキング、 ・改善的発想法 ・ロジカルシンキング(垂直思考)・クリティカルシンキング
		顧客	マーケティング論 ・顧客満足度 ・サービスサイエンス ・ロングテール、フリーミアム ・顧客価値分析・顧客分析(デシル, RFM、商品カテゴリー分析)
	プロセスイノベーション (B)	業務プロセス	・革新ドライバー ・BPM ・IE ・ABA ・Tri-Shaping ・Ex-Approach ・ABC/ABM
		情報システム	・技術研修各種 ・ICT新技術 ・PMBOK ・5W4H ・FOA ・Communication
		パートナー	・BPO戦略 (選択と競合)
	事業基盤イノベーション (C)	人材	・社員評価分析 ・モラルアップ法 ・新採用基準 ・社員育成MAP
		経理	・財務分析、(収益性、安全性、効率性、資金、財務リスク)分析、管理会計、意欲高揚施策 ・Financial Engineering
		資本	・融資と投資改革
		組織・制度	・組織論 ・制度改革 ・風土文化改革
		環境	・環境問題概論 ・個別環境分析
	戦略イノベーション	経営戦略	・Profit Pyramid ・アーマー経営 ・SECI ・ライフサイクル分析・Bプラン ・OW ・BMG ・5F分析 ・PIMS
社会モデル	社会システムイノベーション	社会システムイ (民官協カイノベーション)	・スマートシティ ・新交通システム・医療システム ・IT融合 ・水産農業改革 ・マイナンバーの広範囲活用